



■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE横浜2022年版v.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)青葉台二丁目計画	階数	地上7F 地下1F
建設地	横浜市青葉区青葉台二丁目28番	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	366 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2022年5月26日
敷地面積	5,570 m <sup>2</sup>	作成者	小松 利匡
建築面積	2,692 m <sup>2</sup>	確認日	2022年5月27日
延床面積	11,377 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>駅からほど近い位置にあり、周辺はマンションが建ち並ぶ住宅街に位置している。計画地には自由利用空地を設け、住民の憩いの場となるような計画とした。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b> 設計住宅性能評価5-1省エネルギー対策等級4取得 F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用(70%以上)</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外構緑化指数50%以上確保 空地率40%以上確保</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> 設計住宅性能評価5-1省エネルギー対策等級4取得</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルのCO<sub>2</sub>排出量70% 適切な量の自転車置場、駐車場スペースを確保している。 適切な量の屋内ゴミ置場を設置している。 広告照明等を設置しない。</p>
<p><b>Q2 サービス性能</b> 光ファイバーケーブル(Gbitクラスのブロードバンド)パースによる内装計画の事前検証 設計住宅性能評価4-1、4-2維持管理対策等級2取得 設計住宅性能評価3-1劣化対策等級3取得</p>	
<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> キッチン水洗は節湯B使用 便器は節水型使用 躯体と仕上材が容易に分別可能</p>	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■ LCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい



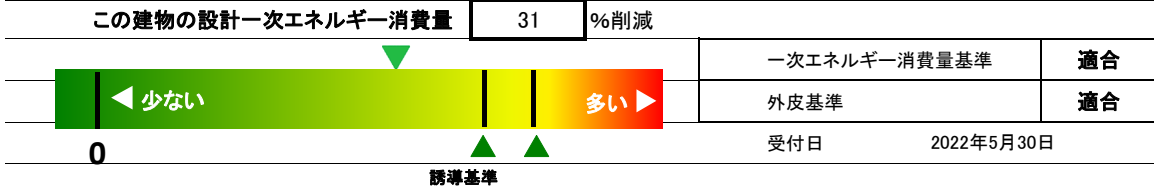
### 4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)青葉台二丁目計画

#### 建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 5

##### ■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



##### ■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①性能評価 5-1断熱等性能等級 等級4取得

③節水型の水栓器具を使用

#### 健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 4

##### ■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当) ※全住戸の断熱性能のレベルの加重平均による

##### ■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

⑥F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用

##### ■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

#### 防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

##### ■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯住宅性能評価 劣化対策等級3を確保

#### 地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 3

##### ■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

⑲広告照明等を設置しない

##### 太陽光発電などの導入



太陽光利用

##### エネルギーマネジメントシステム導入

— — —

##### 環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)



CASBEE横浜2022年版v.1.0  
(仮称)青葉台三丁目計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>										<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00			<b>3.0</b>
1.1 騒音				3.0	0.50	3.0	0.50			-
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50			-
1		開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			-
2		界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30			-
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			-
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			-
1.3 吸音				-	-	-	-			-
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.0</b>	0.35	<b>4.0</b>	1.00			<b>3.7</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	1.00			-
1		室温	快適・働きやすさ	3.0	0.63	-	-			-
2		外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	3.0	0.38	4.0	1.00			-
3		ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	-	-	-	-			-
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	-	-			-
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30	-	-			-
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00			<b>3.0</b>
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50			-
1		昼光率	快適・働きやすさ	3.0	0.60	3.0	0.50			-
2		方位別開口	快適・働きやすさ	-	-	3.0	0.30			-
3		昼光利用設備	快適・働きやすさ	3.0	0.40	3.0	0.20			-
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50			-
1		昼光制御	快適・働きやすさ	3.0	1.00	3.0	1.00			-
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	-	-			-
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	-	-			-
<b>4 空気環境</b>				<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00			<b>3.6</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63			-
1		化学汚染物質	快適・働きやすさ	4.0	1.00	4.0	1.00			-
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38			-
1		換気量	快適・働きやすさ	3.0	0.50	3.0	0.33			-
2		自然換気性能	快適・働きやすさ	-	-	3.0	0.33			-
3		取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	3.0	0.50	3.0	0.33			-
4.3 運用管理				-	-	-	-			-
1		CO <sub>2</sub> の監視	快適・働きやすさ	-	-	-	-			-
2		喫煙の制御	快適・働きやすさ	-	-	-	-			-
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-			<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.1</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00			<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60			-
1		広さ・収納性	快適・働きやすさ	-	-	-	-			-
2		高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	-	-	5.0	1.00			-
3		バリアフリー計画	快適・働きやすさ	3.0	1.00	-	-			-
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40			-
1		広さ感・景観	快適・働きやすさ	-	-	3.0	0.50			-
2		リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	-	-	-	-			-
3		内装計画	快適・働きやすさ	3.0	1.00	1.0	0.50			-
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30	-	-			-
1		維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-			-
2		維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	4.0	0.50	-	-			-
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.1</b>	0.30	-	-			<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震				<b>3.0</b>	0.50	-	-			-
1		耐震性	防災	3.0	0.80	-	-			-
2		免震・制振性能	防災	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.8</b>	0.30	-	-			-
1		躯体材料の耐用年数	防災	5.0	0.20	-	-			-
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	3.0	0.20	-	-			-
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	3.0	0.10	-	-			-
4		空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	3.0	0.10	-	-			-
5		空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	5.0	0.20	-	-			-
6		主要設備機器の更新必要間隔	防災	3.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				<b>2.4</b>	0.20	-	-			-
1		空調・換気設備	防災	1.0	0.20	-	-			-
2		給排水・衛生設備	防災	2.0	0.20	-	-			-
3		電気設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
4		機械・配管支持方法	防災	3.0	0.20	-	-			-
5		通信・情報設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.3</b>	1.00			<b>3.2</b>
3.1 空間のゆとり				-	-	<b>3.6</b>	0.50			-
1		階高のゆとり		-	-	4.0	0.60			-
2		空間の形状・自由さ		-	-	3.0	0.40			-
3.2 荷重のゆとり				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50			-
3.3 設備の更新性				<b>3.0</b>	1.00	-	-			-
1		空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
2		給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
3		電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-			-
4		通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-			-
5		設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2022年版v.1.0  
(仮称)青葉台二丁目計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-			3.1
1	生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	18	0.30	-	-			2.0
2	まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	19	0.40	-	-			4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			20	0.30	-	-			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	20	0.50	-	-			-
3.2	敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	14	0.50	-	-			-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-			3.6
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-			4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	1	0.20	-	-			4.0
2	自然エネルギー利用		省エネルギー性能	2	0.10	-	-			3.0
3	設備システムの高効率化		省エネルギー性能	3	0.50	-	-			5.0
4	効率的運用			4	0.20	-	-			3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-			-
	4.1	モニタリング		省エネルギー性能	4	-	-			-
	4.2	運用管理体制		省エネルギー性能	4	-	-			-
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-			-
	4.1	モニタリング		省エネルギー性能	4	0.50	-			-
	4.2	運用管理体制		省エネルギー性能	4	0.50	-			-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-			3.0
1	水資源保護			3.0	0.20	-	-			3.0
1.1	節水			3.0	0.40	-	-			-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-			-
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-			-
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-			-
2	非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-			3.2
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-			-
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-			-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-			-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-			-
2.5	持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-			-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-			-
3	汚染物質含有材料の使用回避			2.5	0.20	-	-			2.5
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-			-
3.2	フロン・ハロンの回避			2.3	0.70	-	-			-
	1	消火剤		2.0	0.33	-	-			-
	2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.33	-	-			-
	3	冷媒		3.0	0.33	-	-			-
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-			3.4
1	地球温暖化への配慮			4.1	0.33	-	-			4.1
2	地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-			3.0
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25	-	-			-
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-			-
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-			-
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-			-
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
	3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
	4	廃棄物処理負荷抑制		4.0	0.25	-	-			-
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-			3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-			-
	1	騒音		3.0	1.00	-	-			-
	2	振動		-	-	-	-			-
	3	悪臭		-	-	-	-			-
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-			-
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-			-
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-			-
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-			-
3.3	光害の抑制			4.4	0.20	-	-			-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-			-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			-
<b>上記以外の重点項目</b>				-	-	-	-			-
<b>&lt;事務用途&gt;</b>				-	-	-	-			-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	13	-	-	-	-			-
<b>&lt;住宅用途&gt;</b>				-	-	-	-			-
<b>健康と安心</b>				-	-	-	-			-
1	化学汚染物質の対策		健康・安心	6	5.0	-	-			-
2	適切な換気計画		健康・安心	6	3.0	-	-			-
3	結露・カビ対策		健康・安心	6	3.0	-	-			-
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	7	4.0	-	-			-